森の風の記憶

Presented by 諸塚村観光協会「まちむら応縁倶楽部」

諸塚の四季 Vol.46　地域資源の再評価の意味

通刊第４６号

平成21年９月３０日発行

目次:

やま学校日記　2
諸塚を食べる　4
ＮＥＷＳ　5
イベント案内　6

※この通信誌は、ご希望の方はメールでもお届けできます。下記にご連絡ください。

最近、もともと地元にあるもの＝地域資源を見直すことで地域活性化しようという話が増えています。その再評価をするときに、手法として普段見慣れた地元の人だけでなく、都会の方たちの視点を利用することはとても有効です。諸塚村でも、10年前から「櫟の森づくり」という、村民と都会の方との協働による地域資源の再評価運動を続けています。みんなで集落を歩いて、そこにあるモノを宝物としてひとつひとつ拾い上げ、使い方、守り方を考えます。その目的はあくまで再評価で、都市と山村、お互いの価値観の尊重です。

禁じ手は、「都会のニーズ」や「もてなしの心」、交流先を受入側が選択する「ターゲット戦略」などの、再評価に他所からの価値観を表面的に注入しないことです。なかには「お金を稼ぐこと、所得を上げることが一番」と言い切るコンサルタントもおられます。本当にそうだろうか。今の世の中、確かにお金は必要です。しかし、地域の閉塞感を産んでいる最大の犯人は、経済にしか視点が持てないこと、お金が1番で、人を2番目にしか考えられないことではないでしょうか。お金は、もともと交換の道具に過ぎなかったのに、お金を持つこと自体が目的になり、お金がなければ何も出来ない都会の価値観が、都会自身を押しつぶしている。

師曰く「欲深き人の心と降る雪は、積もるにつれて道を忘るる」

確かに地域資源は、商品化しないとそのままでは売れませんし、道具としてのお金を使って、地域づくりを持続可能にすることはとても大事なことです。しかし、山村はお金よりも人と人とのつながりが大事で、まだお金を物差しにしない価値観が残っています。そこにある地域資源の本来の価値を活かす主役は、そこに住む、それ守っていこうとする方たちです。（矢）

全村森林公園 諸塚
百彩の森づくり
諸塚村

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代３０６８
しいたけの館２１内 諸塚村観光協会
TEL０９８２－６５－０１７８
Fax０９８２－６５－０１８９

９月の出来事

９月５日　ぎゃあな祭
９月5～6日　ムラの娘ツアー
９月5～6日　第92回エコツアー「諸塚でやま学校しよう」
９月 18 ～ 19 日　韓国全羅北道完州郡視察団　来村
９月 20 日　中山間盛り上げ隊　立岩地区の敬老会と運動会
９月 26 ～ 27 日　諸塚志伝会　第１６回山林塾

HP　http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp
e-mail　ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

やま学校日記

第92回エコツアー「諸塚でやま学校しよう」 受講生２４名
平成21年８月６日（木）～７日（金）

1日目　9月5日(土)

２４人の満員御礼で始まった第９２回目のやま学校しよう！今回は、初めて参加の方が１３名、子どもたちもたくさん集まりました。

最初の体験「あくまきづくり」の様子は、４ページ『諸塚を食べる』でご覧下さい

そば畑の入り口の栗の木にはたくさんの実がついています。鮮やかな緑色で収穫はまだまだのようでした。蕎麦まきの案内は、焼き畑での蕎麦まきもおこなっていたベテランの甲斐光さんです。ソバは種を播いてから７５日目には口に入るほど成長します。穀物の中では最も早いと言われ、昭和４０年くらいまでは主食だったそうです。また、ソバの実は小さい方が粉にしたときには量がとれるとか。いろんな話しを聞いた後、いよいよ蕎麦まきです。８人が１列に並び種を投げあげてまいていきます。その後は、「ソバの角を隠すより自分の恥を隠せ」と言われるように、少し土をかぶせれば良いと指導を受け、クワで作業をしました。まいた後は、猪から守るため電柵の準備です。支柱を立て、線を３段引っ張りました。太陽光を利用したものですが、触るとかなりのビリビリです。これで猪対策も準備万端です。暑い中の作業でしたが予定時間より早く終了しました。１１月のそば打ちが楽しみです。３日後にはかわいい芽を出すそうです。ソバの成長はブログで紹介しますので、お楽しみに！

今日の晩ご飯のメニューは、ナスの南蛮風、オクラスープ、かぼちゃサラダ、季節の野菜、ニラ醤油などなど。初めての方も多かったですが、手際よく作業が進みました。早めの夕食の後は車３台に便乗してぎゃあな祭会場へ向かいました。

左：そば作りのベテラン！光さん。
中：パラパラと蒔いて…
右：土をかぶせます。

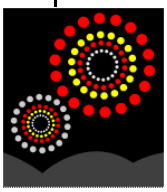
今月のやまがっこう

1日目

1時間目　あくまきづくり

2時間目　そばまき･畑の電気柵はり
みんなでつくったタご飯
いただきます！

ムラの夏祭りぎゃあな祭



2日目

3時間目　渓流カヌー体験

諸塚の食堂探検
なつかしのムラの食堂へ

～やまの風･まちの風～　3年前に小学校が閉校になった立岩地区。今も、地域住民による運動会が行われています。今年は「中山間盛り上げ隊」の皆さんにも加わってもらいました。

2日目　9月6日（日）

雨戸が開けられ、朝食の準備が進みます。朝食の定番メニュー塩さばの炭火焼きは定評があるようです。恒例の記念撮影をすませ、カヌー体験場所「しいたけの館２１」に向かいました。今日は絶好のカヌー日和。カヌーの指導は、カヌークラブの甲斐誠さんと中田康正さんです。元気よく挨拶をして、まずカヌー道具の準備から一緒に始めました。中田康正さんから説明を受け、スタッフの田辺君がひっくり返った時の模範演技？をして体験に入りました。カヌーを楽しみに来ましたと言われる方が多く、はじめはゆらゆらしながら乗っていましたが、時間が経つとスイスイと漕いでいました。川の流れが速いところを漕ぐにはかなり力がいるようで、なかなか陸に上がれないやま学校生もいたようです（笑）。透きとおった川に魚が泳ぎ、色とりどりのカヌーが浮かび、岩から楽しそうに飛び込む光景、ゆったりと流れる時間に嬉しく思うスタッフでした。予定時間どおりに終了し、みんなで片付けをしてカヌー体験は無事に終わりました。

さて、今日のお昼は「諸塚の食堂体験」の第１弾。村民御用達の「柳原（やなばる）食堂」にエコツアー初潜入です。焼きそば、焼きめし、チキンライスの人気３品をいただきました。川遊びで疲れたみなさんの食欲は旺盛で、ほとんど完食されました。駄菓子なども並ぶ食堂の雰囲気を懐かしく感じる参加者もいたようでした。食後はぎゃあな祭の抽選会で当たった栄養ドリンクも配られ、帰りの運転手さんに飲んでもらいました。

今回参加された方々からいろいろな提案をいただきました。来年度の100回記念イヤーに参考にさせていただきたいと思います。（聖）

アメンボのようにスイスーイ！？

まちの声　参加したやま学校生の感想です。

◆花火はいろんな意味でドキドキハラハラでおもしろかったです。
◆とびこみもとても楽しかったし、ラッコ泳ぎもとても楽しかったです。
◆早朝、雲海を見ることができ感動しました。神秘的でした。
◆灰汁は皮をつけるものだと思ったけど、もち米をつけておくんですね～！勉強になりました。自分たちで作るとさらにおいしく感じました。

むらの声　世話人　中田　康正さん

なかだ　やすまさ　諸塚カヌー倶楽部
諸塚カヌー倶楽部のメンバー。普段のお仕事は、村の役場の産業部門。畜産や漁業関係などを担当しています。

子ども達のカヌーの上達の早さにびっくり！ほとんどカヌー初体験のみなさんでしたが、しばらくするとほたる橋の下をスイスイと行ったり来たり。カヌーはもちろん、川から見上げる景色、水中を泳ぐ魚などを楽しんでいただきました。次回の挑戦を楽しみにしています。

～やまの風･まちの風～大豆応縁倶楽部の畑では、ダイズの花が咲きました（表紙写真 9月25日）。紫色の小さな花がかわいらしく咲いていました。さて、今年の収穫はどれほどでしょうか？

諸塚を食べる！（46）　モチもち“あくまき”

もち米と自然の木灰でつくる、山の文化が生んだむら伝統のスイーツ。独特の食感がなんともいえません。

関東で育った筆者は、恥ずかしながらこちらに来るまで「あくまき」というモノを食べたことがありませんでした。おいしい！けれど、なかなか自分でつくることが難しいこの“あくまき”づくりに、第92回やま学校生の皆さんと一緒にチャレンジしました。

準備するものは、前日から餅米をあく水に漬けておいたものと竹の皮。まず竹の皮の端を細く引き裂いて紐を数本作ります。竹の皮を広げて、カップ１杯の餅米を形良く包み、先ほどの引き裂いた皮の紐でしっかりと結びます。この結びが弱いと米が出てくるのだそうです。沸騰した釜で約３時間茹でます。大釜に火を炊いて、その中に様々なあくまきを投入しました。

1.竹の皮とモチ米を用意して　2.崩れないようにきれいに包み　3.グラグラ煮ること約３時間！

今回やま学校であくまきづくりを教えてくれたのは、山本イワさんと山口タケ子さん。《椎茸寿し》で有名な、立岩地区の特産品加工グループ【どんぐりハウス】のお二人です。あくまきをきれいな色に仕上げる秘訣は、いい灰汁（あくみず）を使うとのことでした。（田）

豆知識　あなたはなにで食べる？ きな粉？ しょうゆ？ それとも…

あくまきの食べ方は、人によって好みが分かれます。砂糖を加えたきな粉をまぶしたり。お醤油をかけていただいたり。筆者は、あくまきと粉の食感が混ざって楽しい前者の方が好みです。今回やま学校生から、大根おろしで食べてみてはとのアイデアが出ましたが、さてさてそのお味はどうでしょう…。

～やまの風･まちの風～　「どんぐりハウス」では手間暇かけたあくまきを、1本350円で販売しています。村内の特産品販売所「もろっこはうす」や宮崎市内アンテナショップ「海幸山幸」などで手に入るほか地方発送も可能です。

ＮＥＷＳ　アニョハセヨ！　国境を越えたお客さま

韓国全羅北道完州郡グリーンツーリズム視察団が諸塚へ

秋の気配が漂いだした、９月のある日。はるばる韓国から、総勢２６名の皆さんが諸塚にやってきました。目的は、なんと諸塚のグリーンツーリズムの取組を視察すること。諸塚の名前が韓国までも伝わっているのでしょうか…？宮崎県内を４泊５日でめぐる視察旅行の一巻でした。

諸塚村内では、森の古民家「やましぎの杜」でのグリーンツーリズム体験が目玉企画でした。この日は、「１０割そば打ち講座」と「田舎料理づくり体験」を行いました。２６名の方に対して、通訳さんが一人ということでなかなか大変でしたが、身振り手振りを交えてなんとかコミュニケーションがとれました。

ひらめきを実現させるおもしろみ

そば打ち体験を行っているかたわらで、やましぎの杜の小さな畑を指して、「あのニラをとってもいいじゃろけ？」と（おそらく）聞く方がいました。私は「どうぞ、どうぞ」と体と声で返事をし、なにが始まるかと見守っていました。数十分後には、その場にあった材料を使って本場韓国風のチヂミができあがり！！私たち村民に郷土の味を振る舞って下さいました。数人の方でワイワイと「ああじゃねえ」「こうじゃねえ」と話しながら楽しそうに料理をする姿は、エコツアー「諸塚でやま学校しよう」で見る光景と全く同じでした。‘ひらめき’を実現させるその瞬間、人はとても良い表情をしています。（田）

↑　上：そば打ち。コネています。韓国の食卓にも麺類はよく登場するそうです。
下：ニラを刻んでいます。この後、特製チヂミが出来上がりました。
←　宿泊先は、池の窪グリーンパークのログハウス。ハーブレストラン「まあ夢」のスペシャル朝ご飯も好評でした。

～やまの風･まちの風～ 韓国の方と出会って、新しく覚えたハングル語。あちらでは、「しいたけ」の事を「**ピョゴ**」というそうです。「ピョゴ」「ピョゴ」と連呼する通訳さんなんだかシイタケがかわいらしく思えてきました。

イベント情報

諸塚の祭り(４６)　イベント

秋の諸塚は、集落の祭りがおもしろい！

諸塚村内　秋祭りカレンダー

作物の収穫を祝う秋祭り。１０月から１１月にかけて、村内の各集落で開催されます。集落の住民に受け継がれる郷土芸能などムラの暮らしの姿に触れることができます。

月日	お祭り	ここが見どごろ！
10/17	飯干神社秋祭り	演芸
10/18	黒葛原秋祭り 川内神社秋祭り	 神事
10/24	南川秋祭り 八重の平秋季祭 立岩諸塚神社秋祭り	演芸（舞踊・芝居） 臼太鼓踊り・桂神楽
10/25	小原井秋祭り	臼太鼓踊り
11/2	家代秋祭り	臼太鼓・地芝居
11/3	川の口秋祭り 七ッ山桂神社祭 穂白尾秋祭り	演芸（舞踊・芝居） 臼太鼓踊り

ここでご紹介した秋祭りは、観光向けのイベントではなく純粋な集落の祭祀行事です。お越しになる際には、集落の住民への挨拶やマナーにお気をつけください。事前に観光協会事務局までお問い合わせ下されば、秘訣を伝授いたします。どうぞお気軽にご相談下さい。

【今後の予定】
10月18日
みやざき音届けコンサートIN諸塚
10月27～30日　森のエコスクール
　延岡市恒富小学校
10月31日～11月1日
　第93回エコツアー　黒岳登山ともみじ狩り・山寺の説法
11月1日　黒岳もみじ祭り
11月15日　諸塚村民文化祭
11月28日～11月29日
　第94回エコツアー　地そばの脱穀と10割りそば　木工に挑戦！

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代３０６８
しいたけの館２１内 諸塚村観光協会
℡０９８２－６５－０１７８
Fax０９８２－６５－０１８９
e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

コスモス（秋桜）

秋を彩る花。この名前を聞いて双子の妖精を思い浮かべる人は、怪獣映画ファンですね。

編集後記

■最近は、夜な夜な祭りの練習にでかけています。今年で２年目の参加ですが、早くも大役をいただき少々緊張（汗）。１１月２日は、家代青年一座の地芝居を観劇にお越し下さい。お待ちしています。（田）
■我が息子８月２日に右手首を骨折し、中体連を目前にし野球部にようやく復活！インフルエンザのため延期になった体育祭でも楽しそうに飛び回りました！ゲンキが何より！！(聖)
■今年は台風がないせいか、柿、栗など果樹の実りが目立ちます。少雨で畑の作物が気になりますが、山の天然モノは大丈夫。さあ皆さん、山へ出掛けましょう。天高く皆肥ゆる秋。（矢）

全村森林公園 諸塚
百彩の森づくり
諸塚村

Presented by 諸塚村観光協会
「まちむら応縁倶楽部」